スマート農業に関連する企業が出展する「北海道スマートアグリフェス」(https://h-smartagrifes.studio.site/)に設けられたセミナー会場で開催され、多くの方たちの聴講がありました。

「北海道農業の未来を考える 気候変動と環境負荷低減の取組から 」をテーマに、UHB「みんテレ」気象予報士、札幌国際大学非常勤講師の菅井 貴子さん、一般社団法人岩見沢広域協定代表理事、一般社団法人スマート農業共同体理事の干場法美さんと共に、林代表が登壇しました。

菅井さん、干場さんからは気候変動や環境問題など今後の心配な影響が紹介されましたが、林代表は北海道農業の未来への希望を語りました。ドローンやロボットなどの普及、干ばつ対策としての吸水ポリマーの活用などで困難を乗り越えていこうという話や、農作業をする人の減少に対しての対策として、ボランティアの活用、スポット的に農作業を手伝うシステム、他の仕事をしながら農業をする半農半Xなどの方法が紹介されました。

また登壇者による食農教育の大切さの議論もあり、北海道農業の未来を考える貴重なセミナーとなりました。

YAMAHA
YAMAHA
YAMAHA
草刈りの可能性広がる

自己紹介　林美香子
・北海道大学農学部卒業後STVアナウンサー
・フリーキャスターとして活動
エアジーFM北海道「ミカコマガジン」担当
・農業・農村・地域づくりの取材
・北海道大学工学部社会人博士課程
・慶應義塾大学大学院SDM(システムデザインマネジメント)特任教授→顧問

2100年の北海道
春
サクラ 約5日早まる
エゾシジミ 増える
夏
真夏日 30日
(石狩地方)
大雨 増える
秋
サンマ・サケ シシャモ不漁
りんごの産地
冬
雪少ない 40%減
真冬日 55日
(石狩地方)
気象庁 北海道の気候変化 異常気象レポート 等
・予測の発表は2014年
・現状では、2023年で、すでに2100年の気候に・・・
←→ 研究者の予想を上回るペースで温暖化が加速